

# 那珂川町図書館

## オススメの1冊

『俳句でつくる小説工房』 堀本 裕樹／著、田丸 雅智／著 双葉社【911.3 ホリ】

ショートショート作家の田丸さんは、樹立社ショートショートコンテストで最優秀賞を受賞するなど、新世代ショートショートの旗手として幅広く活動している作家です。田丸さんは愛媛県松山市の生まれ。町中に俳句ポストがあつたり、小学生の頃の宿題にも俳句が出たりと、小さい頃から俳句に馴染み、また、たまたま正岡子規と同じ高校の出身であることも、田丸さん自身が俳句に興味を持つきっかけになったそうです。

この本は、田丸さんがとある一つの俳句から無性に想像力を掻き立てられ、ショートショートを書いたことがきっかけで企画された本です。俳句のテーマを2つと、自由題という3つの枠を設け、一定期間募集し、応募された俳句の中から俳人の堀本さんが作品をいくつか選出。その作品の中から田丸さんがインスパイヤーされたものを題材にお話（ショートショート）を書くという、とても面白い企画です。

「冬の星」というお題から生まれた俳句、《冬星や残り香ははなむけ 餞のごと 夕子》

この俳句から生まれた小説「香りの保存師」をちょっとご紹介します。

主人公は一人の青年。高校を卒業し進学のため上京。新しい部屋の匂いの中に、さっきまでいた両親や、持ってきた洋服などから実家の匂いが入り混じる。一人暮らしに少しずつ慣れてくるが、大学の長い休みの時には帰省し、実家の匂いに子どもの頃を思い出し、懐かしさを感じていた。匂いと人間の記憶の結びつきに興味を持った青年はその研究を始め、調香師という仕事を知る。青年はこの仕事に憧れ、ますます研究に打ち込む。しかし、突然の出来事が彼を襲う。両親が事故で他界。実家を維持していくことができなかった青年は、家を取り壊すことを決意。取り壊し前日、荷物がなくなった部屋で佇む青年。実家が無くなるという事がどれほど自分にとって大きな事だったか、せめてこの匂いだけでも保存できればと願うも叶わず。青年は、無事に大学を卒業し、念願の調香師の仕事に就く。その中でも、「香りの保存師」という仕事に携わる。香り人間の記憶との結びつきについて研究をし、様々な香りを作っていく。家庭を持ち、日々研究を重ねていく彼がたどり着く匂いとは…。

短いお話が他にもたくさんつまっています。14のテーマや自由題からつくられた俳句と、そこから創られた小説の後には、田丸さんによるお話の解説と堀本さんの俳句の選評、他の佳作などが掲載されています。ショートショートが好きの方はもちろん、俳句が好きの方も楽しんでいただけるのではないのでしょうか。

那珂川町図書館(ハチ公)